

豚児たちも豚が動物語る 中国文化の深い奥行き

中国で肉といえば、即豚肉を意味する。その他の肉は牛肉、トリ肉、羊肉のようにそれぞれの動物名をつけて呼ぶ。豚がいかにか中国人の食生活に根を下ろしているか、たとえば、文字の面でもその密着ぶりがうかがえる。

中国で豚を表す文字には「亥」と「豕」の二つがあるが、亥は豚の骨格の形、豕は豚の外形を象形文字にしたもので、この基本的な区別を元にしてさまざまな漢字や概念がつくり出されている。

たとえば「骸」という字は、骸骨、骸軀などと熟語にし、骨だけになった体や体そのものを意味するが、骸の扁へんである「骨」は、これまた骨の形を象形文字化したもの。すなわち骨の接合部、いわゆる「ちようつがい関節」とよばれる部分をかたどったものである。つまり、骨という字は、ばらばらになった一本ごとの骨を指すのに対し、「骸」はそれぞれの骨が組み合わさった「骨組み」を意味する文字で、その場合、豚の骨格を参考にして「亥」という字がつけられたというのが中国のユニークさ。

一方、豕という字は豚が四本の脚で立っている姿をそのまま九十度回転させ、頭が上に、尻が下になった形。つまり四つの足が左向きになった横向きの姿を象形化したものである。

したがって、わが国でもつばら用いられている「豚」という字は、肉を意味するニクヅキ(月)扁に家を組み合わせたところからもわかるように、豚の「肉づきのよいからだ」を意味する文字で、豚が「豚」にならなかつたところがなかなか今風なのである。

ついで、このように、亥が豚の骨組みを表す文字であることから、これをいろいろな「扁」と組み合わせてもっとも広範囲の概念を表す数々の文字がつくり出された。

すなわち「核」という字は、中心部にあつて硬いもの、言い換えると「タネ」のようなものを意味する文字で、また「刻」というのは骨を刃物で刻む意味。「該」は言葉が体の中心部まで及ぶという意味から「命令や通達などが国のすみずみまで行き渡るさま」を表す文字となった。おもしろいのは「効」という字で、弾効などと用いて「誰かをやり玉に上げたり、相手の非を鳴らしたりすること」を意味するが、本来は「だらけた骨に力を加えてしゃんとさせる」意で、俗にいう「気合を入れる」意味だったのである。それにしても、中国では豚は「豚児」(豚児)「まで生んだのである。

ワンポイント知識

「消費期限」と「賞味期限」

スーパーマーケットなどで販売されている事前に包装された食肉や食肉加工品には「消費期限」又は「賞味期限」が表示されています。「消費期限」は、生肉、調理パン、弁当など品質の劣化が速い食品に「年月日」で表示されています。

一方「賞味期限」は、品質が劣化しにくい食品に表示されており、開封前の定められた方法で保存すれば、おいしく食べられる期限のことです。3ヶ月を超えるものは「年月」、3ヶ月以内のものは「年月日」で表示されています。